

## (2) 汚濁負荷量

水質の汚濁発生源としては、河川上流では自然汚濁によるものが主であるが、河川中流及び下流では、水産加工場、食料品製造業、し尿処理場等の工場、事業場によるもの、人口の都市集中化に伴う一般家庭からの生活雑排水によるものが主な発生源となっている。

これら水質の汚濁発生源からの汚濁負荷量について、環境基準点に係る流域別に、人間活動に起因する「人為汚濁負荷量」と、人間活動以外の自然的な事象に起因する「自然汚濁負荷量」に区分して推計結果をみると、人為汚濁負荷量の特に大きい水域は、河川では、旧北上川下流（門脇）、鳴瀬川中流（南郷）、迫川下流（西前橋）、白石川下流（白幡）などとなっている。また、海域では、工場、事業場が立地している石巻地先海域、仙台港地先海域、二ノ倉地先海域となっている。

さらに、人為汚濁負荷量の内訳をみると、生活系では旧北上川下流（門脇）、迫川下流（西前橋）、鳴瀬川中流（南郷）などで汚濁負荷量が大きくなっている。なお、人口の集中している仙台市を貫流している広瀬川、梅田川の汚濁負荷量が比較的小さいのは、公共下水道の整備によるものである。

工場・事業場系をみると、汚濁負荷量の大きいのは、河川では地場産業である水産加工場などの比較的多い旧北上川下流（門脇）、海域では用水型のパルプ工場が立地している石巻地先海域、二ノ倉地先海域並びに水産加工業の盛んな気仙沼湾、松島湾となっている。

畜産系をみると、河川流域において農業及び畜産業が盛んなため、旧北上川上流（神取橋）迫川下流（西前橋）、鳴瀬川中流（南郷）などで汚濁負荷量がやや大きくなっているが、人為汚濁負荷量の全体からみると、その占める割合は各水域とも小さくなっている。

一方、自然汚濁負荷量が多い水域は、流域面積が広い旧北上川上流（神取橋）、鳴瀬川中流（南郷）、阿武隈川下流（岩沼）などとなっている。また、花山ダム、栗駒ダムなどの湖沼に流入する河川では人為汚濁負荷量に比べ自然汚濁負荷量が大きくなっている。

なお、別に添付している「水質汚濁物質排出負荷量現況分布図」は、昭和52年度における排出負荷量の現況を5段階に区分して示したものである。